

皇子初見

りばらトハ、其母ノ皇族ナルヲ云ヘルナリ、

〔日本書紀垂六〕二十三年冬十月壬申、天皇立於大殿前、譽津別皇子侍之、

○按ズルニ、是レ皇子ヲ以テ、名ノ下ニ連ラテタル始メナリ、

〔日本書紀天武十九〕八年十二月戊申、由嘉禾親王諸王諸臣、及百官人等給祿各有差、

〔續日本紀文武一〕四年六月、甲午、勅淨大參刑部親王、略中撰定律令、賜祿各有差、

○按ズルニ、同紀是ヨリ先キ、正月丁巳、授新田部皇子淨廣貳ト見エ、四月癸未、淨廣肆、明日香皇

女薨ト載タリ、然ルニ本文ノ如ク、六月ニ至リテ、刑部親王ト名ノ下ニ連稱シタリ、蓋シ親王ノ

稱ハ、此間ニ於テ制定セラレシモノナランカ、

〔帝王編年記文武十〕大寶元年、今年以皇子號親王、

〔神皇正統記文武〕皇子を親王といふこと、此御時にはじまる、

〔令義解四〕凡皇兄弟皇子皆爲親王、女帝子亦同、謂據嫁四世以上所生、何者案下條爲五世王不得娶親王故也、以外並爲諸王、自

親王五世雖得王名不在皇親之限、

〔六典吏部〕皇兄弟皇子皆封國、謂之親王、

○按ズルニ、女帝ノ子ヲ親王ト爲ストハ、内親王ノ諸王ノ妻トナリテ御子ヲ生ミ給ヒ、夫王歿

シテ後ニ即位シ給ヒシ時ノ事ニテ、其御子ハ親王タル事ヲ得ルヲ云フナリ、日本書紀齊明紀

ニ、天豐財重日足姬天皇、明齊初適於橘豐日天皇、明用之孫高向王、而生漢皇子、後適於息長足日

廣額天皇、明舒而生二男一女、略中明年正月后即天皇位トアリ、漢皇子ハ即チ此例ナリ、

〔令義解二〕凡戶主皆以家長爲之、戶内有課口者爲課戶、無課口者爲不課戶、不課謂皇親、略下

〔令義解四〕凡王娶親王臣娶五世王者聽、唯五世王不得娶親王、

○按ズルニ、五世王ニシテ親王ヲ娶レバ、其子ハ二世王トナルガ故ニ此制アルナラン、

親王初見

親王制度